

**B ドイツ語 1 第 11 回 講読: 教科書第 7 章**

範囲: 教科書『地球という宇宙船』第 7 章、S. 33-37 (CD トラック 8)

**Glossar**

教科書の補足説明:

S. 35

• werde ... sein.

\* 接続法 I 式による間接話法 (「～とされている」)。 (⇒文法教科書 S. 116、授業第 3 回配付資料 S. 1)

\*\* 接続法 I 式 (直説法と同形の場合は II 式) を用いるため、ドイツ語の間接話法は、英語などと異なって必ずしも導入文 (man sagt, ... のような) を必要としない。

\*\*\* この werden は未来形のもの。 (⇒文法教科書 S. 115)

• Weder Bodenschätze noch Maschinen und Anlagen

\* weder A noch B は**相関的接続詞**で「A も B も～ない」の意味 (英語の *neither A nor B* に相当)。

\*\* 相関的接続詞としては、以下のものを覚えておくとよい。

	意味	(英語の対応表現)
<b>nicht A, sondern B</b>	A ではなく B (⇒文法教科書 S. 15)	<i>not A, but B</i>
<b>nicht nur A, sondern auch B</b> <b>nicht allein A, sondern auch B</b>	A だけでなく B も	<i>not only A, but also B</i>
<b>sowohl A als auch B</b>	A も B も	<i>both A and B</i>
<b>entweder A oder B</b>	A かそれとも B か	<i>either A or B</i>
<b>weder A noch B</b>	A でも B でもない	<i>neither A nor B</i>
<b>zwar A, aber B</b>	確かに A ではあるが、B である	<i>of course A, but B</i>

• würden ... entscheiden

\* 接続法 II 式による間接話法 (同じく「～とされている」)。この場合、接続法 I 式だと werden となって直説法と同形になってしまうので、接続法であることを明示するために接続法 II 式を採用している。 (⇒文法教科書 S. 116)

• sondern

\* 上記の weder A noch B に加えて、nicht A, sondern B というもう一つの相関的接続詞を併用している。

• ein Stoff, der ... ist.

\* 省略。なにが省略されているか?

• sich vermehren lässt

\* sich<sup>4</sup>+不定詞+lassen で「～される」という受動態と同じ意味の表現になる。もちろん、この不定詞は他動詞でなければ使用できない。

\*\* 「増加させられる」

• Es soll den Welthandeln beflügeln,...

\* この段落の **sollen** はすべて伝聞の意味(「～だそうだ」)。(⇒文法教科書 S. 62)

S. 36

• Unternehmer flexibler, effizienter und produktiver machen

\* 4 格+形容詞+machen で「4 格を～にする」。

• Internet und Handy sollen alle Grenzen niederreißen, die „Globalisierung total“ ermöglichen.

\* この文には 2 通りの解釈がある。一つは、教科書でそう説明しているように、**die** を複数 1 格の関係代名詞ととる解釈、もう一つは、**ermöglichen** まで話法の助動詞 **sollen** がかかるととる解釈。

\*\* **die** を複数 1 格の関係代名詞とすれば、先行詞は **Internet und Handy**。ドイツ語では、先行詞のすぐあとに関係代名詞を続けるだけでなく、いったん文を完結させてからあらためて関係代名詞節を配置することができる。もちろん、先行詞の直後に関係代名詞を続けたとしても間違いではなく、上記の文であれば、**Internet und Handy, die „Globalisierung total“ ermöglichen, sollen alle Grenzen niederreißen.** でもよい。関係代名詞節をどう配置するかは文体的な好みの問題で、ここでは関係代名詞節を枠構造 (**sollen ... niederreißen**) の外に出すスタイルが選択されたと考えられる。なお、関係代名詞 **die** は、その節のなかの定動詞が **ermöglichen** であり、4 格目的語 (単数) として **Globalisierung total** が存在するところから、複数 1 格であるとわかる。このため、先行詞の候補としては **alle Grenzen** もありうることになるが、『完全なるグローバル化』を可能にするすべての境界」では意味的におかしいので、**Internet und Handy** が先行詞であると考え。意味は『完全なるグローバル化』を可能にするインターネットや携帯電話は、すべての境界を取り払うとされる。」

\*\*\* **ermöglichen** まで話法の助動詞 **sollen** がかかるとすれば、**Internet und Handy sollen alle Grenzen niederreißen.** と (**Internet und Handy sollen**) **die „Globalisierung total“ ermöglichen.** が、ともに主文として並列されていることになる。その場合、**die** は関係代名詞ではなく **Globalisierung** にかかる女性単数 4 格の定冠詞である。意味は「インターネットや携帯電話は、すべての境界を取り払い、『完全なるグローバル化』を可能にする」とされる。」

\*\*\*\* 一つ前の **Es soll ...** 以下の文では、**sollen** がコンマで区切られたすべての不定詞 (**beflügeln, generieren, machen**) にかかっているの、後者の解釈の方が文の繋がりからして自然ではないかと思われる。

• aus Feinden Freunde.

- \* 省略。なにが省略されているか?
- Die neue Welt? / Wohl nicht für alle.
  - \* 段落末に疑問文 (ここでは 1 格の 1 単語のみ) を置き、次の段落冒頭で筆者の答えを述べている。修辭的な表現。
  - \*\* 「新世界? / おそらく (その新世界は) 万人のためのものではない。」
- Die einen ..., die anderen ..., noch andere
  - \* ein と ander が呼応して、「一方は~, 他方は~」や「あるものは~, またあるものは~」の意味になる。ここでは、さらに noch andere が入ることで、「さらにまたあるものは~」と続けている。
  - \*\* ここでは、ein も ander も不定代名詞で、形容詞型の語尾変化をしている。
  - \*\*\* die anderen 以下にも noch andere 以下にも省略がある。ここで省略されているものはなにか?
- Interesse daran
  - \* Interesse (n. 興味、関心) は、an+3 格あるいは für+4 格と併用する (〜に対する興味、関心)。Vgl. sich<sup>4</sup> an et<sup>3</sup>. / für et<sup>4</sup>. interessieren 「〜に関心がある」 (⇒ 文法教科書 S. 80)
- immer und überall abrufbar zu sein
  - \* この zu 不定詞句は、dafür や daran にかかると同時に、das Wissen und die Ausbildung の修飾語ともなっている。
  - \*\* zu 不定詞句が前置詞の目的語となる場合、da(r)+前置詞の融合形 (⇒ 文法教科書 S. 53) と併用し、そのあとに置かれる。  
(例) Ich freue mich darauf, in den Ferien an die See zu fahren.  
私は休暇中に海に行くことを楽しみにしている。
  - \*\*\* 「いつでもどこでも呼び出される状態であるためには、あるものは資金を持たず、あるものは知識や教育を持たない。またあるものは、そんなことに興味を持っていないのである。」

S. 37

- Sicher scheint, dass...
  - \* dass 節 (「~すること」の意味になる名詞節、⇒ 文法教科書 S. 64) が主語。
  - \*\* dass 節を主語とする文は、形式主語の es を用いて書き換えることができる。
- die Zweite und die Dritte Welt
  - \* 固有名詞と考えて、形容詞が大文字になっている。
  - \*\* die Zweite Welt は「第二世界」だが、教科書にあるように「中進国」ではなく、「(冷戦時代の) 東側世界」のこと。
- die weniger Entwickelten
  - \* die Zweite und die Dritte Welt に対する同格 (1 格)。

\* \* weniger は wenig (少ない) の比較級で、ここでは副詞的用法。

\* \* \* die Entwickelten は entwickeln (vt. ~を發展させる) の過去分詞の名詞化 (⇒文法教科書 S. 112) で、これが weniger (あまり~ない) と組み合わせられている。

• immer chancenloser werden

\* immer+比較級で「ますます~になる」。

(例) Die Tage werden immer länger.

日がますます長くなる。

### 補足問題

1. Der wichtige Rohstoff der Zukunft werde das Wissen und die Kommunikation sein. を、Man sagt...に続く直接話法の文に書きあらためよ。
2. 1 の文につき、伝聞を意味する話法の助動詞 sollen を用いた直説法の文に書きあらためよ。
3. Weder Bodenschätze noch Maschinen würden über wirtschaftlichen Erfolg entscheiden. を、Man sagt...に続く直接話法の文に書きあらためよ。
4. 3 の文につき、伝聞を意味する話法の助動詞 sollen を用いた直説法の文に書きあらためよ。
5. Ein Stoff, der unendlich sich vermehren lässt, entscheidet über wirtschaftlichen Erfolg. の関係代名詞節を、過去分詞を用いた通常を受動態に書きあらためよ。
6. Es soll den Welthandel beflügeln, neues Wachstum generieren, Unternehmer produktiver machen. を、伝聞を意味する話法の助動詞 sollen を用いる代わりに、接続法 I 式を用いた間接話法の文に書きあらためよ。導入文はなしでよい。
7. Internet und Handy sollen alle Grenzen niederreißen. を、伝聞を意味する話法の助動詞 sollen を用いる代わりに、接続法を用いた間接話法の文に書きあらためよ。導入文はなしでよい。
8. Die einen haben das Geld, die anderen das Wissen und die Ausbildung nicht. は、読点の前後はいずれも主文であるが、どちらかを従属接続詞 während を用いた副文にあらため、全文を書き換えよ。
9. Noch andere haben kein Interesse daran, immer und überall abrufbar zu sein. を、再帰動詞 sich<sup>4</sup> an et<sup>3</sup>. interessieren もしくは sich<sup>4</sup> für et<sup>4</sup>. interessieren を用いて書きあらためよ。
10. Sicher scheint, dass die Zweite und die Dritte Welt immer chancenloser werden. を、形式主語の es を用いて書きあらためよ。

#### 連絡先など

講師のメールアドレス: tokan@nifty.com 講師のウェブサイト: <http://hasegawa.la.coocan.jp/>

授業のウェブサイト (進捗表示、配付資料あり): <http://hasegawa.la.coocan.jp/lecture/2017/2017tusBDeutsch1.html>